

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療に携わっていた代表の両親の考えをもとに、「老いても障害をもっていても自分らしく当たり前に暮らしたい」という理念を作った。「…当たり前に…」と言う言葉のなかには、「地域の中で…」と言う思いがこめられており、現在も大切に職員に伝え続けている。同じ敷地で両親が病院を開設してきたので、地域の方々とのつながりを更に深め、地域の中で安心した生活を継続できるよう取り組みをしていきたいと考えている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議の中で、代表が理念に関する話を一つ一つ丁寧に説明している。また職員の採用のための面接時にも、代表から理念に関する説明をおこない、入社時から理念の共有に努めている。職員は理念を理解しており、利用者に対して「言ってはいけない言葉」をかなり意識して日々のケアを実践している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には訪問時や家族会等、折に触れ繰り返し伝えている。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と地域住民へホームだより等を通してお伝えしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、文化祭など、職員、利用者とともに参加している。保育園より、行事の招待状をいただき利用者も楽しみに参加している。地元のお店で買い物をするようにしており、自然と顔なじみのかたも増えてきている。また、代表が中心となり、ホームの和室でお茶会をおこない地域の方を招待している。16年より自治会にも加入し、自治会長より直接地域の情報などの連絡をいただけたらと、ホームたよりも地域に回覧していただけるようになった。災害時は地域の方々の避難場所としてホームを活用していただくなど、地域に根ざしたホームとなる努力を続けている。	○	今後、ホームがより地域の方々と交流ができるよう、小学校や中学校の子供達との交流をはかしていきたいと考えている。また、地域の文化祭に、利用者の作品を展示できるよう、一層取り組みたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着型サービスは地域と支え、支えられる関係にあり、利用者への日常支援を大事に一つ、実践経験を地域の人々に向けて行動力を育てていることを確認していく。	○	介護予防教室の開催等、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会等を行って行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価での要改善点は、全職員で改善策を検討した。より質の高い介護をめざして職員全員で取り組みを行っている。今年度の自己評価・外部評価に関しては代表より「日々の業務がマンネリ化しないように振り返りを行い、利用者向き合っの支援を行うことの説明を行った。まずは、管理者補佐、職員等で自己評価を記入した後代表、職員に追加・補修などが無い確認を行っている。	○	来年度は全職員がじっくり自己評価を行い、業務への振り返りが深く行えるよう今後取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のときには、毎回、日々の暮らしがや行事がわかるように代表から説明をおこなっている。よりグループホームのことを理解していただきたいと、ホームの顧問・医療連携看護師等からの報告を行った。参加者からも現在自治会で行われている防犯対策に関する提示していただき、「ホームの方々も地域の避難場所を使っていたらいいですよ」と言う今後の確認をさらにする。	○	研修の時には、利用者も参加し一緒に勉強している。お茶会形式で、他グループホームの運営者も交えて少しでも利用者との会話ができる取り組みに挑戦する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表が、市役所の窓口にかがいがいホームの状況を報告したり、ホームだよりを持参している。ホームの開設前には、地域の人口動態や産業、廃棄物処理の方法などを相談すると、市の方が丁寧に教えてくださった。また小浜町支所主催の地域ケア会議にも参加している。	○	今後は、地域ケア会議の中で、ホームの取り組みを伝えていくとともに、事例発表を行っていくことで、もっと市役所の方に、ホームの取り組みを理解していただきたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに、対応が必要と思われる利用者が居る場合には、随時職員に説明、アドバイスを行いながら利用者の支援に結び付けている。	○	全職員が、理解できる体制をとりたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明を丁寧に言うことはもとより、事業所でできること、できないことを時間を取って丁寧に説明している。又、重度化や看取りについての対応、医療連携体制について同意を得るようにしている。	○	契約時においては、将来のことを含めて疑問等を引き出し、十分な説明ができるようにしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。そのときどきの利用者の不安・意見等は、各ユニット毎に話し合いを行い特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。	○	四季ごとに利用者による自治会を開催したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	笑顔の表情を撮影した写真を家族にお渡ししたり、また、面会時には家族のお話を良く聞きながら、日頃の生活の様子を個別に伝えている。面会時とあわせて、電話や文章での報告をしている。状況によっては職員が自宅を訪問し、家族とお話する機会を作っている。金銭の収支も毎月報告している。	○	今後、家族会の活動を通して、さらに報告を密に行っていくとともに、家族が知りたいと思っている情報を個別にお伝えしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームを来訪時、代表職員等は家族に声かけし繰り返し要望を言っていたらよい働きかけしている。年二回のお茶会時にご家族の意見交換を行っている。「職員の顔写真が欲しい」という意見を受けて、作成・実施した。	○	家族会では、家族同士で話し合ってもらえる時間をとり、意見や苦情等を伝えてもらえる場面を増やしホームと家族のコミュニケーションを深めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会・個別面談概ね月一回行い意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションをとるよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応ができるよう、通常のシフトに入れていない為、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じた、柔軟な体制を取っている。又、その都度必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である代表は、職員の異動はさせたくないと考えているが、職員の経験をつませるためや、スキルアップのため、馴れ合いを防ぐためにも必要時のみ移動を考える時もある。運営者、管理者等とともに、馴染みの関係の重要性を理解し、職員教育にも力を入れている。基準以上の人員配置を行うと共に、職員の休みの希望に極力、応じている。代表や管理者等が職員の個人面談をおこない、課題があれば一緒に考えるようにしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者である代表は、職員育成の大切さを理解し、年に10回ほど組織全体で研修をおこなうなど、職員の育成に取り組んでいる。医療面、接遇面など、外部講師にもきていただき、よりレベルアップできるように努めている。外部研修にも参加できるようにし、参加者は、定例会の時に、資料を他職員にも配布し、内容を伝達している。現場では、代表、管理者等、医療連携看護師などが、医療面のアドバイスを含めて職員指導にあたっている。研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者である代表は、同業者との交流を行っていく必要性を理解しており、雲仙市グループホーム連絡協議会・長崎県認知症グループホーム連絡協議会等の研修会に職員を参加させている。研修会への参加、事例検討会、情報交換なども行っている。	○	他のホームの方が見学に来ていただけるような取り組みをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や面談時に職員のストレスや悩みを把握するよう努め、気分転換を図れる機会を作っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後の対応として、本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用にいたるまで、主体として本人に会い、話を良く聞くことを大切に、本人を受け止めることに努めていく。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初めて相談に訪れたとき、家族等にとって今何に困っているのか即時的なニーズが何なのか等、話を充分聞くよう努めている。家族の状況を把握することによって信頼関係を作ることにつなげている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、事業所として出来る限りの対応に努めている。又、必要に応じて他のサービスの利用の調整を行う等、できることは速やかに実行している。地域包括支援センターや地域のケアマネージャー等と連携している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者の自宅を訪問し馴染みの関係を作るよう心がけている。ご本人にも、ホームを見学していただき、少しずつ馴れていただくような配慮をしたり、職員と信頼関係を築けるように努めている。利用者主体で入居が出来る努力を続けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関 係を築いている	職員は、利用者から、料理、子育ての仕方、物の大切さ、戦時中の食事、 昔の体験、経験、考え方、他人に対する思いやり、気付き、動作など、たく さんのことを教えていただいている。職員が励まされてい場面も多く、その 都度、職員は感謝の気持ちを利用者へ伝えている。又、お一人お一人の 悲しさ、辛さにも寄り添い、その方に応じた声掛け、対応を続けている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	助ける人、助けられる人という関係ではなく、家 族と共に、一緒に考えていける自然な人間関係 を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係 が築いていけるように支援している	家族が疎遠となってしまっている場合、お便り等 で関係が途切れないよう留意している。来訪時 はご本人とご家族の潤滑油になるよう心がけて いる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	事業所を利用して知人友人等に会いに行ったり 、訪問してもらい、連絡を取り持つなど、繋がり の継続を支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	世話役の人にもうまく力を発揮してもらい、他の利 用者の気持ちを引き上げてくれる場面を作ってい る。利用者同士の関係や力・個性を活かす配慮 をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切 にしている	サービスを利用しなくなっても地域住民として、遊 びにきてもらったりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のお気持ちを把握していきたいと全職員は望んでおり、お一人お一人、個別に話しやすい場を作り、思いの把握に努めている。利用者と同じ目線で利用者のお話を傾聴し、時には夜勤の時、安心につなげるため、隣と一緒に横になることもある。他、食事づくり、散歩、レクリエーション時、ドライブ、入浴時など、職員と利用者が一緒に過ごす時間を大切にし、その時間のなかで語り合い、お気持ちを知るように努めている。生活歴も大切にし、行動、表情から思いを汲み取る努力も続けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の歴史やサービス利用にいたった経過を知ることが大切にプライバシーに配慮しつつ日々の中でこれまでの暮らしを捉えていく積み重ねとして職員が本人や家族等と共有していく。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が利用者を総合的に見つめる目を養いながら、日々の中でチーム全体として把握に努め本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見していくことに努めている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、日頃の関わりのなかで、あらかじめ本人、家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医と相談した結果も踏まえ医療連携看護師も含めて、皆で話し合って作っている。「地域で暮らす」という視点も盛り込み、その人らしく続けるための個別計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状のモニタリングのため、一ヶ月に一度、ミーティングの中で、全利用者の評価をおこない記録に残している。利用者、家族にも新たな希望が生じていないか常に声掛けしている。変化が生じた時は、見直しの設定した時期の前でも、新たな介護計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より良いケアに向けて、日々の記録を根拠にしながら、介護計画の見直しに活かしている。職員間の情報共有を徹底している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内に医療連携看護師が配置されており、体調で気になることがある場合も、細やかに職員は相談を行うことができています。通院時も、医師、看護師、職員の間で、細やかに情報交換ができています。入居者や家族の要望に応じて、入院中も、医師などと情報交換に努め早期退院をはかるなど、柔軟な対応をおこなうことができています。各入居者の要望に応じて、買い物、自宅に帰りたいなどの要望があるときは職員が同行を行っている。又、地域の方からも介護に関する相談を受けたりしている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、お茶会等を通して、民生委員、地域住民、他施設の職員等と意見交換する。又、消防、公民館等地域の資源を活用できようとしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係(家族の支援ネットワーク交流会認知症交流会に職員が参加)を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族などの要望を聞き、希望によっては以前からのかかりつけ医で受療していただいている。すべてのかかりつけ医とは、日頃から情報交換を密にし、信頼関係を築いている。通院時は職員が通院介助しているが、結果は医療連携看護師から家族に報告している。終末期の対応に向けて、24時間の連携がとれるよう医療機関との話しができています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関が脳神経外科医師を配置しており、又、心療内科の専門医の受診もでき、認知症についての支持や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の普段の状態や、持病等を良く知っている看護資格を有する職員を配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は介護職員の記録を元に確実な連携を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために医師等と話しをする機会を持ち、事業所内での対応可能な段階で早期退院できるようアプローチしている。入院時には本人の情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら、頻繁に職員が見舞うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	いつまでも、ここ(ホーム)で生活ができるのかを心配される家族もおられるので、入居時に、「終末期にも対応している」ことを、全家族に伝えている。体調に応じて、医療連携看護師を中心にしながら、利用者、家族、医師などと繰り返し話し合いを続け、全員で方針を共有できるように努めている。	○	終末期に対する対応指針を定めているも、当ホームは今だその様な状況はないが、今後状態の変化がある毎に、家族の気持ちの変化や、本人の思いに注意をはらい支援に繋げて行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を備え、他の利用者への影響もふまえた対応、準備に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の環境や暮らし方の変化によるダメージが最小となるよう本人に関わる関係者に協力をお願いしている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が入居者の居室を入室する時は、必ず声掛けをおこない、その方に応じた話し方を気をつけている。否定的な言い方はしないようにしており、職員も意識してケアに取り組んでいるが、今後も指導的な態度、否定的な態度はしないよう取り組みを続けていきたいと考えている。個人情報に関しては、個人の話をするときには他に聞こえないよう配慮するとともに情報の漏洩防止にも努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の心に向き合い、合わせた声掛けをし、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、大きく書いたメモ等を使用し、些細なことでも本人が決める場面を作っている。複数の選択肢を提案して利用者一人一人が決める場面を作っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は無理強いをすることなく、利用者が望む事に応じるようにしている。利用者と同じ目線で声掛けをし、スキンシップをはかりながら、その日の過ごし方の希望を会話の中から聞いている。「何か仕事はないね～」と利用者の方から希望を言ってくださる方や、朝の神様のお参りから始まり、お料理、配膳、散歩と、毎日の日課、役割がある方も多く、自主的に動いてくださる方も多い。なるべく本人のペースで自由に行動していただくようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて、個々の生活習慣に合わせて支援をし、行事等日頃から化粧や、おしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、買い物、下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳、箸おき、食後の片付けなど、利用者お一人お一人の力に応じて手伝っていたりしている。時々外食したり、旬のものや菜園で取れたネギ、きゅうりなども利用し調理している。彩りにも配慮するとともに、同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話のなかで楽しい食事となるよう毎日心がけている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	なじみの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れてくれる。たばこについては職員が預かっていたが現在は喫煙者はなし。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人のサインを全職員が把握し、さりげない誘導を行い失敗した場合でも、極力本人が傷つかないように、手早く周囲に気付かれない等の配慮をし、又、オムツ(夜間)を使用している場合は、随時見直しを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週に三回を原則にしているが、時間が許す限り毎日でも入浴は可能になっている。体調に配慮しながら、好みの湯温や時間などの希望を大切にしている。一人ずつ入浴をさせていただいており、羞恥心への配慮として、同性介助にすることもあがる。菖蒲湯やゆず湯を行うなど、入浴を楽しむ工夫もしているが、入浴時の職員との会話も、ゆったりとした心地よさに繋がっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない利用者については、添い寝をしたり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをする等配慮している。一人一人の体調や表情希望等を考慮してゆっくり休憩が取れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームから見える海、周辺の山々、緑、空は、何よりの気晴らしにつながっているが、利用者の方々に、長年培って来たお力を発揮していただけるよう、料理、洗濯物たたみ、軍歌をうたっていたり、和裁、金魚の餌やりなどをしていただくなどして、日常生活の中で役割や楽しみ等を持っていただくことで表情も明るく、気持ちも明るくなられている。その時々の時のお気持ちを大切にしながら、楽しい生活となるよう職員も取り組み続けている。	○	利用者の作られた作品を今年はホーム内に展示しているが、さらに文化祭等に出品したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を所持してもらったり、買い物に行く時は、本人の財布からお金を出すことで、社会性の維持につなげている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前からよく行かれていた、美容室、スーパー、神社、花見等の場所など、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。利用者が嬉しそうな表情になれるのが職員も嬉しく、職員も一緒に外出を楽しんでいる。なるべく要望をお聞きし、利用者本位の外出ができるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「家に帰ってみたい」「温泉に行ってみたい」等思われる場所への外出については、あらかじめ計画を立て職員の勤務を調整する等しながら、家族の協力も依頼して行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りとして、会話が他の利用者に聞こえないよう公衆電話の設置場所を工夫している。毎年年賀状を出す為の支援を欠かさず行っている。日常的には利用者の希望に応じて手紙を出し、電話をできるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めず、ご家族の気軽で来やすい雰囲気作りを心がけるとともに、仕事帰りや都合のいい時間帯にいつでも訪ねてきていただけるような配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか等を点検している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝7時から夜20時過ぎごろまで解放されており鍵は掛けておらず、入居者、家族のかたには自由に入出入りしていただいている。職員同士で声を掛け合い、お1人お1人の行動の確認、見守りを行うとともに、近所の方に何かある時点での協力連絡をいただけるようお願いに行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業・掃除・調理等を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は数時間ごとに利用者の様子を確認するとともに、起きた時すぐに対応できるよう居室が見通せるリビングのソファ等で居場所を工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や刃物・薬等利用者の身辺においている。利用者の状況を照らしながら厳重に保管すべき物、保管管理が必要な物、利用者が使うときに注意が必要な物等にわけて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・窒息・誤薬・行方不明・火災等の事故防止の方法を定期的に学び、共有徹底している。	○	事故やヒヤリハットに関する報告・記録がきちんと整理・整頓されていない部分があり、今後事故防止策等を具体的に全員で取り組みたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが・骨折・発作・のどづまり・意識不明等の対処方法・救急救命等の学習や訓練を定期的に行いすべての職員が、年に一回の応急手当の勉強会(実技含む)を実施し、体験習得するようにしている。消防署の協力を経て救急手当てや蘇生術の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。	○	夜勤時の緊急対応について、マニュアルを整理し、周知徹底を図っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、2ユニット合同で災害時の訓練をしているが、全職員、利用者、消防署が参加し、火災時、地震、水害、夜間などを想定しての訓練もおこなっている。また、災害時に備えた備品は、懐中電灯、飲料水用ポリタンク、毛布、ポータブルトイレ、排泄物の凝固剤、ポータブルラジオなどを準備している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりえるリスクについては、個別的に介護計画で定期的な見直しを行っている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色や様子に注意し、兆候を見落とさないようバイタルチェック(体温・血圧・脈測定)・水分摂取・排泄チェック等を実施し、変化やサイン、対応について報告・連絡・相談をするとともに、記録し医療等に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	漫然と服薬支援を続けるのではなく、状況の変化をチェックし服薬ファイルの作成や、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、全職員が内容を把握している。又、看護職員や協力医療機関との連携を図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や、乳製品を取り入れ、散歩、家事活動等身体を動かす機会を、適度に設けて、自然排便できるよう取り組んでいる。便秘予防に向けては下剤や浣腸等もやむを得ず使用している場合もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。1人1人の力に応じた歯磨きの手伝いの中に綿球を凍らせた物で刺激を与えるケアをしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者のお1人お1人の食事に関する好みを把握するために、定期的に嗜好調査(聞き取り)を行っている。代表は「食事が一番大切である」考えており、利用者の好みを大切にしている。個別に肉を魚に変更したり、食べやすいような配慮をするなど、お好みに応じた食事が提供できるよう工夫している。食事量、飲水量ともに、把握、記録している。	○	食事内容を必要に応じて写真に撮って残しておきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症について、マニュアルを作成し、全職員で学習して予防対策に努めている。感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。又、利用者家族に同意をいただき、インフルエンザ予防接種を職員も含め施行している。ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用する等、又、感染症予防対策として弱酸性次亜塩素酸を蒸気として一日中使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やフキン等は毎晩漂白し、清潔を心がけている。冷蔵庫も点検・掃除し食材の残りは鮮度や状態を確認し冷凍したり処分したりしている。新鮮で安全な食材を使用するため、毎日買い物へ出かけて、なるべく買いためをしないようにしている。台所・水周り・調理器具等の清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて実行している。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口に全職員の顔写真を掲示し、駐車場入り口からブランターを置いている。明るい雰囲気になるように、花を生けたり玄関先に金魚鉢まわりの火鉢で金魚等を飼育し、ブランターを置いたりして玄関周りや建物周囲の工夫を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、代表の両親が使っていた昔ながらの冷蔵庫やソファ等を活用し、和と洋をマッチングさせながら、共有空間のレイアウトを考えている。馴染みの場所・席ができていても多く、ホームの周囲に咲いている季節の木々や花を利用者が摘んできて食卓に自然に飾られている。時には家族の方が持ってきて下さったお花が飾られるときもある。居心地に良い空間が作られている。リビングから見える海は最高の眺めになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに絵画や植木を置き、リビングにはイスやソファ小さなテーブル等を置き、又、1ユニットは畳敷きの空間を作っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族の方々と一緒に相談しながら、イス、テレビ、位牌など持ち込まれており、入居者にとって慣れ親しんだものに囲まれるよう配慮している。お1人お1人が安心して居る部屋作りを続けている。カーペットを使用している利用者の方はすべて防災にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアは食事の後や一定の時間帯に換気をしており、冷暖房は常温の±5℃を基本に利用者の発汗の様子や冷え等に注意して、調節している。利用者の居室の空気の入れ替えは一日3、4回程度行っており、トイレは換気扇と消臭剤で悪臭がでないよう工夫している。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下等の居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。本人の活動性を維持するために歩行器等を個人の状態に合わせて取り入れている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員一同で話し合い、利用者の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう配慮をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、利用者が涼んだり、日向ぼっこができるような工夫をしている。車イスの方も外の空気や景色を楽しめるよう、庭に出たり、ウッドデッキ等を活用している。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き活きと働けている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない